

## 蚊媒介感染症の概要について

## 1 蚊媒介感染症とは

蚊媒介感染症とは、ウイルスや原虫などの病原体を保有する蚊に刺されることにより感染する感染症の総称。主な蚊媒介感染症にはウイルス疾患のウエストナイル熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、デング熱、日本脳炎、黄熱、原虫疾患であるマラリア等があり、これらの感染症は主として熱帯・亜熱帯地域で広く流行している。

蚊媒介感染症の一部は、感染症法（\*）上、全数把握対象疾患のうち四類感染症の対象とされており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出ることになっている。

\*感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）

表 四類感染症の対象疾患となっている主な蚊媒介感染症

疾患名	媒介蚊(感染経路)	発生地域	潜伏期間	主な症状
ウエストナイル熱	アカイエカ、チカイエカ、ヒトスジシマカなど (トリ→カ→ヒト)	アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア 西アジア、米国など	2～6日	発熱、頭痛、背部痛、筋肉痛、筋力低下、食欲不振、発疹
ジカウイルス感染症	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ (ヒト→カ→ヒト)	中南米、カリブ地域、アジア太平洋地域	2～12日	発疹、掻痒感、疲労感、頭痛、関節痛、結膜炎等 (ジカウイルス病)
チクングニア熱	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (ヒト→カ→ヒト)	アフリカ、南アジア、東南アジア、	3～12日	急性の発熱と関節痛、発疹
デング熱	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ (ヒト→カ→ヒト)	東南アジア、南アジア 中南米、カリブ海諸国	2～15日	発熱で始まり、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛
日本脳炎	コガタアカイエカ (ブタ→カ→ヒト)	日本、中国、東南アジア、南アジア	6～16日	発熱、頭痛、嘔気、嘔吐、めまい、意識障害
黄熱	ネッタイシマカ (ヒト→カ→ヒト)、 (サル→カ→ヒト)	アフリカ、アメリカ	3～6日	発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、背部痛、悪心・嘔吐
マラリア	ハマダラカ (ヒト→カ→ヒト)	東南アジア、アフリカ、中南米	7～40日	発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛

## 2 治療

マラリアについては、抗マラリア薬を投与する。

ウエストナイル熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、デング熱、日本脳炎、黄熱は対症療法が中心となる。

### 3 予防

日本脳炎は不活化ワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効であるが、ウエストナイル熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、デング熱はワクチンや予防薬がない。

黄熱については、生ワクチン（黄熱ワクチン）によるワクチン接種で予防することができる。（本県においては、黄熱ワクチン接種の実施なし。）

どの疾患も肌の露出を少なくし、防虫剤を適宜使用するなど、蚊に刺されないように注意することが重要となる。

### 4 蚊媒介感染症の発生状況

令和7年の蚊媒介感染症の発生件数は図1及び図2のとおり。宮崎県では2件の報告があった。

図1 H29年以降の蚊媒介感染症の発生件数（全国）  
（令和7年データは、感染症発生動向調査システム速報値）



